

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190100018		
法人名	有限会社 釘本		
事業所名	グループホーム 青空		
所在地	佐賀県佐賀市神野西4丁目12番12号		
自己評価作成日	平成 31年 5月 8日	評価結果市町村受理日	令和2年1月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成 31年 5月 28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

アットホームな雰囲気です。笑顔の多い施設だと思います。季節ごとの行事を計画し、バスレクでは季節ごとの花見、外食、買い物などを行ったり、餃子づくりや、コロッケづくり、おはぎづくりなど、昔取った杵柄で、昔を思い出しながら楽しく作業されています。また、個々にあったプランを立て、役割づくりをし、生活リハに取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅街に位置し、春には桜がきれいに咲く公園や歩いて買い物に行けるスーパーがあり、家庭的な雰囲気です。笑顔の多いホームである。職員も勤続年数が長く、「その人らしさ」を大切に、入居者に寄り添ったケアに散り組まれている。また、季節ごとの行事や外出を行い、地域行事にも参加するなど、日頃から地域交流が図られている。地域の中でオレンジカフェ等、介護についての情報の発信源にもなっているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境でその人らしさを大切に、楽しく明るく過ごせるようホームの理念を掲げ、職員全体で共有している。カンファレンス時に管理者が思いを伝え、理念の実現に向け取り組んでいる。	業務中や毎月のカンファレンスで理念の振り返りを行っている。常に入居者の思いを組みとれるように、具体的な助言や対応について話し合いながら、実践につなげられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の草取り、お祭りへのホームからの参加、地域からのボランティアの受け入れ等、日常的な交流が図られている。散歩等でも気軽に挨拶できる関係ができています。	地域の区役やお祭りに参加している。また、ボランティアの訪問があり、近所の方も遊びに来られ、日常的に交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に民生委員、自治会長等参加されて、日頃の認知症支援の様子や問題事例を伝えて感想や意見を伺いまた、認知症への理解を得るよう努める。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年間6回開催し、現状報告、事故報告、困難事例検討、自己評価、外部評価の報告をしている。介護サービスの質の向上に活かしている。	会議では、ホームや地域からの情報や意見、要望について、意見交換している。また、家族の要望で研修会を開催し、一緒に考えるなど意見交換が行われ、その意見をサービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホームの問題点等、市へ相談する機会をつくり理解を得るよう努めている。連携をとっている機関との連絡協議会も参加している。	介護保険者や市役所に報告や相談を適宜行っている。関係機関との連携も図られ、良好な関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修や問題事例等回覧し共通理解に努めている。日中は玄関に施錠せず、帰宅願望等不穏状態の利用者の対応には職員が寄り添い、傾聴に努めている。	ホーム内研修を定期的に行い、全職員が拘束をしないケアについて、正しく理解し個別ケアに取り組まれている。入居者の行動を否定せず寄り添ったケアが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、高齢者虐待についての講習会や研修会に可能な限り参加して月に1度のホーム会議において報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、知識と理解を深めている。必要性については責任者、関係者と話し合い、適切な判断を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホームの内容や料金について詳しく説明し理解して頂くように努める。また、法改正時は、説明書を作成し、口頭で再度説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族やご本人からの意見や要望などの対応は、相談窓口を設けて書類に残し、ホームカンファレンスで対応を検討し、また運営推進会議で受け付けた事項とホームの対応を報告し意見やアドバイスを頂き事例検討する	家族会で意見交換が行われている。また、面会時に個別に家族の意見を聞き、運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度のグループホームの会議や、2か月に1度の法人全体の会議で、職員からの意見、要望等、聞く機会を設けている。出された意見に対して、運営に活かされるものについては迅速に対応し、反映されている。	毎月の会議の中で、職員の意見や要望を聞いている。また、職員が一人で抱え込まないように、主任が個別的に相談や意見を聞き、ホーム長へ伝え、迅速に対応を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	講習希望のスタッフに対してシフトの調整や講習料金の半額負担等考慮したり、アンケートを設けて環境改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会等には可能な範囲で参加して、報告書提出で回覧する。また、職員の介護スキル向上のため、中堅職員から新人職員への技術指導を日ごろから行っている。また、月に1度のカンファレンスにて、介護の統一図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は、地域のネットワークに参加したり、医療連携の病院開催の交流会等に参加し、知識の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、ご本人の話を傾聴し、コミュニケーションを多く取り、信頼関係を築くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、家族等の話を傾聴し、不安や要望等、問題収集につとめ、問題解決につながるプランの作成に努めている。相手の立場になり、親身にアドバイス行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、本人や家族の話を傾聴し、不安や心配事、意向など情報収集を行い、優先順位を考え、その方に合った適切なサービスを見極め、提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	寄り添い、家族的な生活空間、安心して生活できる馴染んだ環境の提供に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ともに本人を支えていくという、共通の目標をもち、情報を共有しながら、家族と協力しあっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の築き上げてきた人間関係を大切にしており、面会に来ていただけるよう、環境を整え、安心感のある雰囲気づくりを心掛けている。	友人や知人の面会時は、居室でゆっくり過せるように配慮している。また、馴染みの場所との関係も継続できるように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格、利用者同士の関係、相性を把握し、席の配置を考え、関係が良好に保たれるよう橋渡し行っている。また、利用者同士が仲良く助け合って過ごしていただくように行事、外出等を計画し楽しく過ごしていただくよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関わりを大切にしながら、本人や家族の経過を見守る。必要に応じて本人・家族の相談に乗っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人、家族より話を聞き、介護計画を立て個々に応じた生活ができるよう支援に努めている。また、半年に一度、意向確認し、プランの見直しを行っている。	日常の会話の中で意向の把握をしたり、定期的にアンケートを実施している。また、家族からの情報や入居者の表情、仕草から意向の把握に努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントや、本人、家族から話を聞き、生活歴や馴染みの暮らし方、趣味や性格等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の排泄、入浴、食事、日常の様子を記録にとり、確認できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスでモニタリングを実施し、ホーム長、計画作成担当者、看護師、介護士の共通理解を深め、介護計画に反映させている。現場スタッフの気づきを大切に、計画の見直しに努めている。	毎月のカンファレンスで情報の共有を行い、家族の意思を確認して、6ヶ月毎に計画書の作成が行われている。入居者の現状に即した計画書の作成が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果、気づきを個別記録に記入し、職員間で情報を共有している。月に1度のカンファレンス会議で、皆で気づきや問題点、解決策を話し合い、介護計画に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、家族が対応できない時には、可能な限り職員が対応し、柔軟な支援を行っている。(お墓参り、老人ホーム母親面会付添等)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの商店に買い物に出かけて馴染みの関係づくりに努めている。向かいの公園で、他者との触れ合いを楽しまれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	佐賀記念病院と在宅支援、医療連携を結んでいて、定期的に往診、健康管理、服薬管理、緊急時対応受け入れ等医療協力機関である。ご家族の希望にて他の医療機関を主治医とし、情報提供を円滑にできるように看護師が支援に努めている。	希望のかかりつけ医の継続支援が行われ、医療との連携が図られている。通院は家族の協力を得ながら、緊急時はホームが対応している。協力医療機関との24時間対応の体制が整えられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	まめに連絡報告を行い、情報を共有し、必要時にはオンコールし、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	佐賀記念病院と医療連携を結んでおり、定期的に健康管理、服薬管理、緊急時の受診、受け入れ等医療協力機関としている。他の医院とも家族と、看護師と連携とれている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族と話し合い、尊厳を重視した終末ケアに努める。重度化した場合は、再度、家族様の意思を確認し、事業所のできることを十分に説明しながら、方針を共有し、医療との連携を取りながら支援に取り組んでいる	看取りの経験はないが、延命処置の有無のアンケートをとったり、ホームができること、できないことをしっかり家族に伝え、医療との連携を図り、対応を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファレンス時に必要な事例等あげて緊急時の対応を話し合っている。看護師による指導も行っている。定期的にAEDの講習を受け、急変時の初期対応を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、避難訓練を行い、消防署より避難や防火についての指導を受けている。地震等他災害についてもマニュアルを作成し、職員全体で確認している。	避難訓練を実施し、避難場所や避難経路の確認が行われている。また、近所の方の応援を想定した、災害訓練も実施されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の排泄介助、入浴介助等では、人格を尊重した対応を心掛け、自尊心を大切にすする支援に努める。(トイレ時の声掛けの仕方、介助時にドアを閉める等プライバシー保護)	大きな声を出さないように、丁寧な言葉かけや対応を心がけている。また、トイレの声かけにも配慮している。書類は、事務所で管理するなど、個人情報の取扱にも留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	季節の自然鑑賞計画を立てる時に、希望や食事のリクエストを伺い、可能な範囲で計画に取り入れる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日、時間に追われることなく、マイペースに過ごせるよう雰囲気作りに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせて本人の好みの服を共に選び、清潔感のある服装の支援を心掛けている。2カ月に1度訪問カットを利用され、本人の希望に沿った髪型にカットし、その人らしさを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事メニューを皆で考え、献立を作ったり、能力に応じた食事の準備、作業ができるよう、声掛け、提供行っている。また、利用者とスタッフが一緒に食事、片付けをしている。	入居者の能力に応じて職員と一緒に作業を行い、食材の準備や片付けが行われている。食事職員と一緒に会話を楽しみながら食べられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるメニューで栄養管理をしている。食事チェック表に毎日記入し、必要時には水分チェック行っている。水分が少ない方は、好みの飲物や、ゼリーや寒天を準備、提供している。本人様の状況に合わせ、食事形態の工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内を清潔に保つことが健康維持の第一歩と考え、毎食後に口腔ケアを行っている。自ら出来る方もスタッフが時々確認し、必要時には仕上げ磨き行っている。月に1度、歯科往診にて、現在7名の方が往診受けられ、口腔内管理されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により、個々の排泄パターンを把握し、排泄の声掛けや誘導に努めている。誘導の時間を短くしたり、声掛けにてトイレでの排泄の意識付けを行い、トイレでの排泄を目指している。	個別に排泄のパターンを把握し、入所者に応じた排泄支援が行われている。状態に応じては職員二人で対応し、トイレでの排泄支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックにより個々の排便の有無を把握し、こまめな水分提供、毎日の体操、ストレッチ運動、歩行運動に努めている。また、食事内容も食物繊維を摂るようメニューの検討、朝の献立でヨーグルトを取り入れるなど行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日の入浴を原則としながら、ご本人様やご家族と相談し、希望に合った入浴を行っている。	入浴は午後から行っている。意向があれば、毎日入浴することもできる。また、状況に合わせて時間や日程の調整をするなど、柔軟に対応されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室での休息は自由にとっていただいている。使い慣れた寝具やまくら、家具を準備していただき、安心できる環境づくりに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カンファレンス時に健康管理をしている看護師より入居者の服薬状況、往診時の連絡事項等を報告し、全職員で周知している。また、往診記録にて確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割づくりとしてケアプランの中に盛り込み、個人にあった家事援助を手伝っていただいている。洗濯たたみ、食材切り、モップ掛け等。楽しみごととしては、お笑いDVD視聴や、カラオケ、散歩等の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良いときは、ホームの前の公園へ散歩へ出かけている。また、2日に一度、横のスーパーへ希望者を連れて買い出しを兼ね、買い物へ行っている。月行事では、季節ごとの花見、買い物、外食等、戸外で過ごす時間を大切にしている。また、家族様へも戸外散歩等の協力をお願いしている。	天気の良い日は、散歩をかねて近所の公園にお弁当を持って行ったり、花見や買い物、外食等、日常的に出かけている。個別外出に関しては、家族の協力を得て、墓参りや同窓会に参加するため外出されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	高額な金額以外のお金の所持は、所持している。2か月に一度くらいのパン屋さん来荘時や、買い物レクなどで、能力に応じて自分で払えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様や本人様の希望にて、携帯電話を所持されているかたは、好きな時間にかかけられる。最近は掛け方が変わらなくなってこられ、横について支援している。そのほか、自ら訴えられる方いないも、かかってきたときは、橋渡しを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂には、季節の花を飾り、手作りのカレンダーで、季節感を出すよう工夫している。また、食堂とキッチンが対面式であるため、食事つくりのにおいや、手伝い等により、生活感を出している。残飯等のおいが出ないよう、ビニール袋、新聞紙でくるみ、ポリバケツも二重にし、におい、コバエ対策を厳重に注意している。	季節を感じる事ができる花を飾り、臭い対策も行われている。温度や湿度に配慮し、ゆっくり過ごせるようにソファの配置や環境整備が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人での時間を気持ちよく過ごせるよう、マッサージチェアー、足のマッサージ機を導入し、思い思いに利用されている。また、大きなソファで、ゆっくり腰を下ろし、会話できる場所の確保を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様はもちろん、面会される家族様にとっても居心地が良いよう、使い慣れた家具や、家族の写真を飾っている。また、月ごとに作成したカレンダーを貼り、季節感のある環境づくりに努めている。	テレビや仏壇の持ち込みがあり、制限はない。生活動線を確保し、ベッドの配置を決めている。家族の写真を飾ったり、その人らしい居室作りが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室など、張り紙や目印などをつけて、理解を求めている。安全面では、こまごましたものを置かない、動線の確保をしている。		